



国際ロータリー第266地区

地区委員会  
活動計画書

1988～'89年度

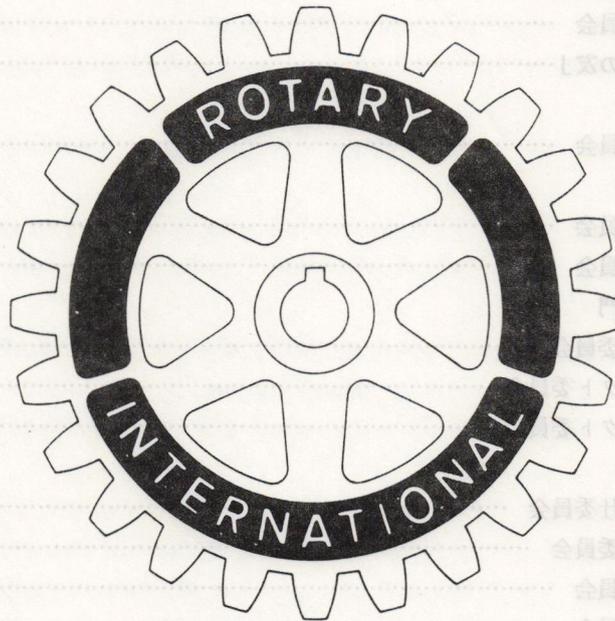
ガバナー 古田 敬三

1988年 7月 16日(土)  
於：新 阪 急 ホ テ ル



ロータリーに活力を—

# あなたの活力を



**PUT LIFE INTO ROTARY- YOUR LIFE**

A handwritten signature in black ink that reads "Royce Albert". The signature is written in a cursive, flowing style. Below the signature is a horizontal line that starts under the first name and extends to the right, ending under the last name.

ロイス・アビー-R.I.会長

# 目 次

扉	
目次	
地区組織図表	
着席表	
プログラム	5
合同地区委員会開催に当って	
ガバナー 古田 敬三	7
地区ガバナー指名委員会	10
意義ある業績賞委員会	11
<b>クラブ奉仕部門</b>	
会員増強委員会	12
広報・雑誌委員会	13
規定情報委員会	14
「ロータリーの友」	16
<b>職業奉仕部門</b>	
職業奉仕委員会	18
<b>社会奉仕部門</b>	
社会奉仕委員会	20
緑化推進委員会	21
<b>青少年奉仕部門</b>	
青少年活動委員会	24
ローターアクト委員会	25
インターアクト委員会	28
<b>国際奉仕部門</b>	
世界社会奉仕委員会	30
青少年交換委員会	31
米山奨学委員会	35
国際交流委員会	37
ソウル大会行委員会	38
<b>ロータリー財団部門</b>	
ロータリー財団委員会	39
財団奨学金委員会	40
研究グループ交換委員会	42
財団増進委員会	43
財団学友委員会	45
ポリオ・プラス委員会	46
<b>拡大部門</b>	
拡大委員会	48
財務委員会	49
地区大会委員会	51





国際ロータリー第266地区  
1988～'89年度 合同地区委員会

プ ロ グ ラ ム

昭和63年7月16日(土) 登録 10:00～

於 : 新阪急ホテル 2F 紫の間

進行 : 地区代表幹事 生駒 一夫

10:30	開会・点鐘	ガバナー 古田 敬三
	ロータリー・ソング「奉仕の理想」	
10:33～12:00	本 会 議	
	就任挨拶・参加者紹介	ガバナー 古田 敬三
	退任ご挨拶	直前ガバナー 松本 良諄
	委員会本年度の方針と活動	各委員会 委 員 長
12:00～13:00	休憩・昼食	
13:00～14:30	本 会 議	
	委員会本年度の方針と活動	各委員会 委 員 長
14:30～14:45	休 憩	
14:45～15:55	本 会 議	
	委員会本年度の方針と活動	各委員会 委 員 長
	地区資金の運用について	財務委員長 吉川 秀一
	地区年次大会について	委員長 木村 五郎
	G. S. E. 団員の紹介	委員長 木村 英一
15:55	閉会の挨拶	ガバナー 古田 敬三
	ロータリー・ソング「手に手つないで」	
16:00	閉会・点鐘	ガバナー 古田 敬三



## 合同地区委員会開催に当って

ガバナー 古田 敬三

1988～'89年度のR Iテーマ、そしてこれに伴うアビー会長の12の要請課題、及び、当266地区の本年度方針ならびに活動については、さる3月12日の会長エレクト研修セミナー、及び、5月14日の地区協議会において既に申し上げましたが、新年度合同地区委員会開催に当り、心を新たにして、新年度各委員会の積極的活動を行って頂くために、あえて重複して申し上げることといたしました。

1988～'89年度のR Iテーマは、『ロータリーに活力を一あなたの活力を』であります。

これに伴い、R Iロイス・アビー会長は、12の要請課題を与えました。

1. すべての会員に、少なくとも一つの奉仕部門のプロジェクト、または、プログラムに参加する機会を与えて頂きたい。
2. 出席を価値あるものとして、例会の構成と内容がマンネリ化しないようにしよう。
3. 会員に情報を行き渡らせ教育するために、4半期毎に少なくとも一度、クラブレベルでの情報集会を行う。
4. 10%の会員増強と、少なくとも前年比20%以下の会員退会減少率の目標を樹てよう。
5. 機会ある毎に40歳以下の若い人を会員に選び、クラブに新風を吹きこもう。
6. 全員参加の主要プロジェクトを開始・完了することにより、本年度を「行動年」としよう。
7. 地区大会に少なくとも会員の25%出席を目標としよう。
8. ロータリー財団プログラムを支援しよう。
9. 国際平和プログラムであるロータリー財団の将来のために、募金プログラムを推進しよう。
10. 青少年活動プログラムを開発しよう。

11. 4半期毎に、クラブの諸活動を検討し、反省会を開こう。
  12. ロータリアンに、指導的地位を受諾するよう指導力養成プログラムを開発しよう。
- 以上がアビー会長の要請であります。

私は本年度地区の方針を、次の通り決めました。

### 1. 友好と親善

明るくて、楽しくて、笑いのあるロータリー・クラブであって頂きたい。クラブ奉仕は、まず、例会の出席から始まります。例会に出席することが待ち遠しいような例会にして頂きたい。

### 2. 思いやりと助け合いのロータリー・クラブ、ロータリアンであって頂きたい。

ロータリーの奉仕の理想の究極は、思いやりと助け合い THINK OF OTHERS, HELP TO OTHERSであると信じます。この温かい奉仕の心を基にして、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、あるいは青少年奉仕の部門の中で、皆さん方クラブの中で実行できることを何か一つ取り上げて、思いやりと助け合いを行動に現して頂きたい。

### 3. ロータリー情報の徹底

明確な情報に基づく明確な知識は、効果的な奉仕活動に何よりも必要な条件であります。最近の調査は、ロータリアンのロータリー知識の乏しさを指摘しています。皆様の情報は正確であり、しかも新しい情報であることが必要です。そのためにも、情報は判りやすくあって頂きたい。GSE、ポリオ・プラス、RYLA等、特に外来語の場合、新会員入会時のインフォメーションで徹底して頂きたい。情報伝達には例会、クラブ・フォーラム、IGF、ファイアサイド・ミーティングなどを利用して頂きたい。情報の徹底は退会防止にもやくだつのです。

### 4. 会員の増強

ロータリー発展のためには会員の増強が必要です。世界のロータリアンは現在

104万人を越えています。しかし、世界の、また、日本の全般的傾向として増強の数字はスローダウンしており、会員増強の主力は既存クラブ会員の増加よりも、拡大すなわち新クラブ結成による増加に移りつつあります。この際、皆様方の地域及び地域周辺を見直して下さい。会員資格のある若い人を推薦して、質量共に増強に努力して下さい。R Iの本年度目標は10%の純増です。50人未満のクラブはぜひ50人達成を目標けて下さい。

#### 5. クラブの自主性を発揮して下さい。

国際ロータリーにも、ロータリー・クラブにもそれぞれ定款、細則があり、手続要覧には、ロータリアンが準拠すべき約束ごとがすべて記載されています。これらの規則に違反することは許されませんが、これらを守りながらクラブの自主性を発揮して下さい。そしてクラブ生活を楽しんで下さい。

以上の地区方針に基づいて、次の諸活動推進にご協力頂きたい。

1. ポリオ・プラス募金活動達成への積極的協力。
2. 1990年開催の「国際花と緑の博覧会」出展のための募金活動として、会員一人当たり5,000円(2年間で10,000円)寄付の協力要請。
3. 会員増強及び拡大への努力。8月の「会員増強及び拡大月間」行事への対応。
4. 1989年1月シンガポールにて開催の「規定審議会」への対応。
5. 1989年5月開催の「ソウル国際大会」参加への促進。
6. 職業奉仕における新方針への対応。
7. 社会奉仕活動(高齢者問題、ボランティア活動推進、身障児招待旅行)の推進。
8. 青少年活動(インターアクト、ローターアクト、ライラ)の強化推進。青少年のためにではなく、青少年と共に活動する。
9. G S E、デンマークR I第144地区との年度内派遣、受け入れ両交換計画実施への協力。
10. ロータリー財団への募金(普通寄付、特別寄付)の協力要請。

地区の各委員会は既に発表されている1988年度R Iの方針ならびに当地区方針に基き諸活動を策定されましたが、各クラブはその方針及び活動に副って、1988年度が実りある「行動の年」に終始するようご協力をお願いする次第です。

## 地区ガバナー指名委員会

委員長 松本良諄（大阪東）      委員 種田憲次（大阪住吉）  
委員 原田秀雄（大阪北）      同 戸田孝（八尾）  
同 伊藤恭一（大阪）      同 世戸一夫（大阪難波）  
同 峯村英薫（大阪東）      同 中村俊一（東大阪）  
同 平井常次郎（大阪南）      同 中西正二（大阪西）  
同 菅生謙三（大阪北）      同 坂東宏（吹田）  
同 伊瀬芳吉（池田）

- (1) 地区ガバナー指名委員会規約に基づき、ガバナー月信2号において、1990～'91年度の地区ガバナーノミニー候補者の指名案を各クラブより提出するよう要請し、その最終期限を9月末日とする。
- (2) 10月1日以降、できるだけ早く指名委員会を開き、候補者の指名を行い、ガバナー月信6号ないし7号で公示し、7号ないし8号でガバナー・ノミニーの宣言を行う。

---

MEMO

---

# 意義ある業績賞委員会

(東大阪) 朝 良 本 公 一 等 八 員 委 員 会

委員長 松 本 良 諄 (大阪東)

委員 中 西 正 二 (大阪西)

同 坂 東 宏 (吹 田)

- (1) ガバナー月信2号において、選定基準と委員会に関する発表を行い、申請期限を10月末日とすることを公示する。(申請手続については「手続要覧」41～42頁参照)
- (2) 12月1日までに選考委員会を開催し、5クラブまでを限度として、受賞クラブを選び、ガバナーに送達する。
- (3) 各ロータリー・クラブに対して、積極的に申請することを勧奨する。

MEMO

## クラブ奉仕部門

会員交賞献業るも善意

担当パスト・ガバナー 松本 良 諄 (大阪東)

### 会員増強委員会

(西通大) 二五西中員委

(田 丸) 室 東 規 同

委員長 八 田 昌 三 (豊中南)

委員 和 田 俊 一 (大阪平野)

同 大 枝 朗 (吹 田)

同 中 谷 治 (大阪城東)

同 山 本 三 雄 (大阪淀川)

同 大 津 久 直 (大阪東淀)

RIアビー会長は10%の会員を増やし、かつ、会員減少率を前年比20%以下の目標とする退会防止にも努力すること、更には40歳以下の若い会員を選ぶこと等によって『ロータリーに活力を一あなたの活力を』というテーマを実践するよう要請されております。

また、地区ガバナーもこの要請を基に50人未満クラブの50人達成、退会防止、若返りへの努力等多くの課題を方針として示されております。

当委員会はこれらの要請・方針を踏まえ、本年度の活動計画を下記の通りとし、目標達成に向け努力して参りたいと思います。

1. 会員数を純増10%の目標とするには、新会員の入会促進は当然のことであるが、一方退会防止も重要な要素であり、会員減少率を前年比20%以下に留めるよう退会要因の究明等、退会防止活動に努力をして行きたい。
2. 前年度に引続き、50人未満のクラブの50人達成への努力を行うとともに、クラブ創立後長期にわたるも尚かつ会員数が50人を下回っている、伸び悩みクラブの特殊性、地域性等の実情把握に努めたい。
3. クラブの活力を高めるためには、若い会員の獲得がより効果的であり、会員資

格条件に関する定款、細則等、規定面の研究、活用の促進に努めたい。

4. 未充填職業分類をクラブ内で全会員に定期的（3カ月毎）に発表・掲示するとともに、特にシニア・アクティブ会員と合同の会員増強委員会を開催し、新たな推薦者の可能性等につき積極的な討議を行うよう奨励したい。
5. 「会員数の増大によってクラブ会員の質を犠牲にしてはならない」（ロータリー必携）と記されており、会員増強に依って質の低下を招かざるよう、クラブ内の情報教育による入会後の養成に努めるよう提言して行きたい。

## 広 報 ・ 雑 誌 委 員 会

委員長 鍛 治 豊 治 （大阪心齋橋）

委員 安 達 忠 利 （吹 田）

同 大 江 龍 郎 （大 阪 西）

同 木 戸 栄 久 （大 阪）

同 福 西 幸 夫 （大阪心齋橋）

同 会 田 中 経 久 （大 阪 東）

## I 活 動 方 針

本年度RI会長の『ロータリーに活力を一あなたの活力を』の意を体し、当委員会としてはこの具現に向け、各クラブ広報・雑誌委員長と各種情報交換をはじめ連絡を密にし、地区として下記活動計画の実施、各クラブにおいては日常の諸奉仕活動のあらゆる機会を捉え、具体的な行動によって地域社会にロータリーへの正しい認識と関心を昂めゆくよう相努めることとしたい。

また、雑誌部門については、前年度委員会の活動を引継ぎ、「ロータリーの友」がロータリアンに真に役立つ「友」として、愛し読まれるよう一段と努力したい。

## II 活 動 計 画

- (1) 8月18日、在阪主要新聞、放送、通信社の担当記者とガバナーとの懇話会

を開催。その際、地区の年間活動計画の主だった行事ならびに奉仕活動等についての説明をするとともに、各クラブの年間奉仕活動計画の中で事前のPRが必要と思われるものについても併せて説明する。

- (2) 従来同様「ロータリーの友」その他一般的な資料をガバナー事務所から定期的に各報道機関に送付、接触を続け、関心の度合いを昂めて貰うべく努力する。
- (3) 地区大会はじめ全体の行事やニュース広報資料は、その都度各委員会から報道機関に送付し、内容によっては取材依頼を行うものとする。
- (4) 各クラブの奉仕活動について最寄りのマスコミあるいは自治体関係に事前に案内、PRを行い、取材につながるよう配慮して頂きたい。
- (5) 「ロータリーの友」がロータリアンに欠かせない情報誌として、知識面はもちろん仕事の面でも役立つ雑誌として活かし、さらに身近な親しみを持つため各クラブの積極的な投稿をお願いする。
- (6) 8月29日に広報、9月6日に雑誌のそれぞれ、クラブ委員長会議を開催。各種活動計画の実行と、その他意見交換を行う。

## 規 定 情 報 委 員 会

委員長 大 西 淳 (大阪平野)

委員 吉 野 昭 夫 (大阪 駅)

同 板 垣 周 男 (豊中-大阪)  
(国際空港)

同 江 原 政 吉 (茨木 東)

同 三 宅 謙 伍 (大阪平野)

ロータリーの組織活動にかかってない大きな発展と変革が見られる昨今、ロータリー情報の強化浸透の最重要課題としての位置づけはことさら論をまつまでもありません。しかし、その成果は、ロータリアン自身の切磋琢磨があってこそ、初めて果たされることです。

当委員会の役割はその研鑽のよきパートナーとなり、ロータリーの基礎的情報や

ロータリー活動の現況情報を随時収集提供することにあります。本年度はシンガポールでR Iの規定審議会が開催されますので、それに関わる立法案の情報伝達に格段の努力を払う予定です。それらの情報活動の効果は、地区内クラブの自主性を損なうことのない運用の妙をもってロータリー奉仕活動の糧として活用されるよう期待しています。

具体案は次の通りです。

1. 各クラブの例会その他の会合で「情報システムマニュアル」の積極的活用の勸奨。
2. I G F開催時の地区規定情報委員会による基礎的ロータリー情報の提供。
3. 規定審議会立法案検討説明会 1988年10月頃開催予定
4. 規定審議会採択案件の説明会 1989年3月頃開催予定
4. その他ガバナー月信にロータリー規定情報に関するお知らせを掲載。
5. 前々年度から計画されている「参考・職業分類表」は前年度に施いて資料の収集を殆んど完了し、編集整理の作業に入ったので本年度前半には刊行できる予定である。

MEMO

## 「ロータリーの友」

地区委員 伊藤 徳次郎（吹田）

### I 「ロータリーの友」合同委員会

「ロータリーの友」合同委員会は隔月の奇数月に開催。委員長が座長となって、副委員長1名、特別顧問（パストガバナー、委員長経験者）5名、顧問（直前ガバナー）5名、常任委員4名、地区委員28名（各地区1名）および編集部3名が出席。

今年度第1回は、7月1日東京プリンスホテルで開催され、新年度の基本方針、諸事項が検討および決定がなされる。以後は9月、11月、5月に東京で、3月は地方で開催の予定。

そのつど、委員会の発言を基に、結果をレポートし、「友」発展のため積極的に提案する。

### II 「ロータリーの友」への出稿について

地区委員として、「地区のたより」と「マイタウン・マイディストリクト」の執筆・編集を担当。

#### 1. 地区のたより

ガバナーの依頼により、地区内クラブの協力を得て取材・執筆・編集を行う。  
掲載は1988年12月号（原稿締め切りは9月20日）

#### 2. マイタウン・マイディストリクト

掲載は1989年1月号（原稿締め切りは11月15日）

〔主要掲載記事〕

古田ガバナーのページ、ガバナー座談会、地区大会告知板、地区大会略報など。

### Ⅲ 活動方針について

ガバナーとロータリーの友地区委員、地区広報・雑誌委員長、クラブ雑誌委員長とのコミュニケーションを大切にすることを基本とする。

4月の雑誌月間のキャンペーンでは、前年度の経験を生かして、有意義な卓話、その他「ロータリーの友」資料の配布等についても地区広報・雑誌委員長と協力して行きたい。ガバナーの公式訪問、会長・幹事会、雑誌、広報委員長会議等の機会に「ロータリーの友」のPRを推進したい。また、「ロータリーの友」に対して理解を深めるため、より一層の投稿を勧める。

- (北西領大) 宮 嶺 共 康 員 委
- (函 大 東) 朝 妻 本 同
- (函 大) 夫 衣 橋 川 同
- (復讐函大) 藤 裡 氏 同

MEMO

# 職業奉仕部門

担当パスト・ガバナー 中村 俊 — (東大阪)

## 職業奉仕委員会

委員長 常持 敦 (寝屋川)

委員 亀井 節治 (大阪西北)

同 本多 博 (東大阪)

同 川淵 秀夫 (大阪)

同 丹野 勝 (大阪阿倍野)

### 1. R Iの新方針と地区の考え方

ケラー前会長が昨年8月、40年振りに「職業奉仕委員会」を招集。新方針案とロータリアンの規範を含めたR Iの新声明が理事会で採択された。アビー会長は国際協議会で「それを研究し、さらにその実施のための行動計画を練ること」と、全世界のクラブに求めた。

これに応じて、当地区では過日の地区協議会で「その研究」をメインテーマとして各クラブ委員長からのアンケートを中心に討議を行った。今回の「職業奉仕はクラブと会員両方の責務である」とするR Iの重点の置き換えは、従来の「職業奉仕における精神性」や「I serve」を否定するものでなく、「クラブが個人の奉仕活動を後押しするためのもの」という前提において理解し、取り組むべきものと判断した。

新方針の中でR Iが奨励する「A就職相談」、「B職業指導」、「C職業情報」、「D職業活動表彰」の4つの小委員会設置については、当地区における全面実施は困難である。ただし、日本の地域社会にニーズがあり、かつ、我々にとっても実現の可能性のあるものを求めて検討した結果、Cの「職業指導」とDの「職業活動表彰」の2つは多くのクラブで実績があり、実現可能性の高いものとして多

くのクラブの関心を集めた。

門 務 分 奉 会 共

## 2. 活 動 方 針

地区委員会としては、地区協議会の結果を踏まえて、各クラブに「クラブとしての職業奉仕の新しいプロジェクト」を取り上げ、「新方針」の中から1つでも、どんな小さなものでも選びだし、これを実現させる努力をしてほしいと依頼したい。さらに、10月の「職業奉仕月間」の前に予定している委員長会議でこの問題をフォローしたいと考えている。

新しい「クラブとしての行動性」を求めると同時に、宗教的裏づけの乏しい日本のロータリーにおいて、「個人の職業奉仕」が果たしてきた「精神的役割」の重要性を再度認識し、「おもいやり」と「隣人愛」など、その成果が「数えられないもの」の実現のためのツールとして、多くのロータリーの「数えられるもの」があり、RIもその主旨で「クラブとしての行動性」を奨励しているということをも全ロータリアンに訴えたい。

機 構 部 会 (1)

MEMO

## 社会奉仕部門

担当パスト・ガバナー 中西 正二（大阪西）

### 社会奉仕委員会

委員長	三好 宏	（大阪平野）
委員	永野 啓之介	（豊中一大阪国際空港）
同	浜田 実男	（高槻東）
同	寺井 種伯	（大阪天満橋）
同	新津 敬直	（大阪西）
同	藤田 静男	（大阪北）
同	依岡 孝明	（大阪平野）
同	外山 紀郎	（大阪なにわ）

#### 〔I〕活動方針

ロータリーにおける奉仕委員会のなかでも当委員会は身体をもって実践的奉仕を行うことが要求されています。特に本年度のロイス・アビー R I 会長の方針は従来以上に Action を起こすように言われていますので、当委員会においてもこの方針に沿って、地区内各クラブに実践的社会奉仕活動を鼓吹したいと思いません。

1. 地区内各クラブの社会奉仕活動にとって参考となる資料ならびに情報の提供に努め、奉仕活動の活性化に努力する。
2. 各クラブ単位の社会奉仕活動は全員参加により、奉仕の理想を目指すための実験活動であることを認識させる。
3. 地区委員会としても上記 1, 2 の方針を具現し得るような『地区挙げて』の奉仕活動を行う。

## 〔Ⅱ〕活 動 計 画

### 1. アンケート調査の実施（実施済）

① 1987～'88年度の各クラブの実績

② 1988～'89年度の各クラブの活動計画

③ 各クラブの社会奉仕活動を行う上の問題点

### 2. 社会奉仕委員長会議の開催（実施済）

### 3. ボランティアの調査・発掘・支援の推進

（「自殺防止センター」、「関西いのちの電話」への個人的支援を含む）

### 4. 高齢者問題に対する具体的マニュアルの作成

### 5. 地区挙げての実験的奉仕活動として「第5回身体障害児等白浜招待旅行」の 実施

## 緑 化 推 進 委 員 会

委員長 圓 井 東 一（大阪北）

委員 谷 口 尚 武（大阪）

同 山 本 研二郎（大阪阪南）

同 妹 尾 四 郎（高槻東）

同 高 田 祐（東大阪）

同 細 川 俊 三（千里）

同 檜 崎 浩 二（大阪東）

### I 基本的な考え方

「ロータリアンによる植樹と育樹を奨励する」R I 決議 86-209号の主旨を体  
し、各クラブがロータリアン1人当たり5,000円（1本500円と見積もった苗木10  
本）をの予算を組んで、毎年自主的に植樹を行うとの当地区内の申し合わせは、  
前年度に続き、今年度も緑化推進の原則として有効に存在する。なお、高木また  
は主景木（都市景観をよくする木）を植樹する場合、1本500円の苗木で本数換

算してもよいとの考え方も同様である。

## II 国際花と緑の博覧会への出展

### (1) これまでの経過

ア. 当地区内の大阪・鶴見緑地において「国際花と緑の博覧会」が1990年4月1日から9月30日までの6カ月間開催されることになり、当地区として昨秋来各クラブと討議を重ねてきた。その結果、1970年の大阪万国博のときの「平和のバラ園」の先例にならい、後世に残る立派なものを「国際花と緑の博覧会」へ出展することになり、さる4月9日の地区大会において協賛出展することを決議した。

イ. 出展に必要な資金については、地元の立場から、'88～'89、'89～'90年度にロータリアン1人5,000円ずつ、計1万円拠出することを原則とする。負担を軽減するためにこの両年度の自主的な緑化事業はこれを休んでもよいと申し合わせた。

ウ. 出展する以上はより立派なものにするため、近隣の地区はもとより、広く全国の各地区に協力をお願いし、日本のロータリーの共同事業にすべく、各地区のガバナー、ガバナー・ノミニーに呼び掛けている。

### (2) 今後の方針と計画

ア. 昨年度の地区大会における「国際花と緑の博覧会」に協賛出展するという大会決議の主旨に沿い、全国各地の協力を得て、さらに全国ロータリーの共同事業として、立派なものを出展すべく、当委員会が中心となって予算との関連を考慮しつつ花博協会の鋭意協議中である。できるだけ早く成案を得て公表できるように努める。なお、出展の方法は、会期中の維持管理費を要しない施設参加の形を採ることとする。

イ. 今回の博覧会が国際博覧会条約に基づく特別博覧会であり、東洋で初めて開催される国際園芸博覧会であることに鑑み、ロータリーの国際奉仕の観点から、R Iの特別補助金を受けることができるならば以下のことを実施したい。日本のロータリー・クラブが特別補助金と同額を負担（実際は、当地区が提唱窓口となる）して、博覧会への参加を希望しながら財政上の理由で参

加が困難な発展途上国の関係者の来阪渡航費および大阪での滞在費を支弁することによって、多くの発展途上国の参加を促進するように努める。対象国の選定その他具体的なことは、ロータリー財団との折衝と並行して花博協会と協議しながら詰めることとなる。

青 少 年 活 動 委 員 会

- (委員長) 藤 野 五 美
- (委員) 北 井 一 郎
- (委員) 山 田 寛 二
- (委員) 津 田 憲
- (委員) 西 五 中
- (委員) 山 口 高 雄
- (委員) 津 田 五 郎

1. R.Y.L.A.の実態

- ① 1988年10月8日～10日 青少活動委員会の設立
- ② 1989年8月3日～5日 Y.M.C.A.同南国際青年センター（スイス）での研修
- ③ 大阪府青少活動委員会のR.Y.L.A.を通じて深い接触がある。今後より密接に相互協力を進めて行く。
- ④ 8月1日に青少活動委員長会を開き、9月の青少活動月間に向けて、各々の活動・準備が完了したものであることを報告した。
- ⑤ 前年度末に刊行したR.Y.L.A. SYSTEM MANUAL（マニュアル）を各クラブに普及、青少活動の一助とした。

## 青少年奉仕部門

担当パスト・ガバナー 坂東 宏 (吹田)

### 青少年活動委員会

委員長 諏訪 正美 (枚方)  
委員 北井 綜一 (東大阪東)  
同 山田 寛二 (豊中南)  
同 津田 宏 (門真)  
同 西 正中 (大阪城北)  
同 山口 満雄 (箕面)  
同 澤田 近裕 (大阪心斎橋)

#### 1. RYLAの実施

- ① 1988年10月8日～10日 能勢青少年野外活動センター(ホスト:箕面)
  - ② 1989年5月3日～5日 YMCA阿南国際海洋センター(ホスト:大阪心斎橋)
2. 大阪府青少年活動振興協会とRYLAを通じて深い接触があるので、今後より密接な相互協力を進めて行きたい。
3. 6月15日に青少年委員長会議を開催し、9月の青少年活動月間に向かって各クラブの活動・準備が充実したものになるよう情報交換を行った。
4. 前年度末に刊行したRYLA SYSTEM MANUAL(ライラ指導指針)を各クラブに普及、青少年活動の一助としたい。

## ローターアクト委員会

委員長 目 幸 等 僊 (大阪天満橋)

委員 クラブ奉仕担当 大 西 晃 夫 (守 口)

同 職業奉仕担当 辻 吉 和 (八 尾 東)

同 社会奉仕担当 神 戸 昭 典 (寝 屋 川)

同 国際奉仕担当 三 浦 高 行 (東 大 阪)

(吉 生 同 人) 年次大会担当 飯 原 弘 章 (大 阪 住 吉)

(田 丸) 米 幸 謝 高 専 特 区 庫

I 前年度19 R A Cは各提唱クラブのご協力と理解により、それぞれ内容、活動共に充実発展をみたが、今期は新クラブの創設に努力し、20クラブ以上を目標とする。従って、本委員会は新 R A C 提唱に際しての援助及び地区青少年活動委員会の基本方針に協力すると共に、在来の R A C 活動の活性化、奉仕活動の活発化に要求される会員増強には、特に提唱クラブの積極的な協力を求める。

II 本年度の地区 R A C のターゲットを「GOODWILL BEGINS WITH YOU 善意はまずあなたから」とし、従来のよき伝統と慣行を踏まえつつ、斬新な活動計画のもと、新鮮なプログラムを推進するよう公式、ゾーン、合同各行事に積極参加を勧め、かつ、提唱クラブとの連繫をより密にして、R A C 諸活動にロータリアンの参加を呼びかけ、親密感、信頼感を与えられるよう要請したい。

III 奉仕活動として次のものを計画している。

1. 地区米山奨学委員会と合同して、留学生との交流、会合、奉仕活動を考える。
2. 地区社会奉仕委員会の奉仕活動に参加、協力する。
3. R A C 未提唱クラブに提唱を要請し、要望があれば、援助・協力をおしませず、年度内に2～3 R A C を拡大したい。
4. 会員増強策として I A C、R Y L A 参加者、特にロータリアン子弟への積極的な入会呼びかけを実行すると共に、先年作成の増強パンフレットを改定し、未提唱クラブに効果的に配布宣伝したい。

特にガバナーの公式訪問時に第3～4項に関して勧告されるよう要望する。□

Ⅳ 本年度の海外研修にロータリアン多数の参加を要請し、彼我RACとの親密度と円滑な精神的交流を意図する。

1988～'89年度

**第266地区ローターアクト役員**

地区代表	飯原昌喜 (大阪住吉)
地区幹事	高橋幸栄 (吹田)
地区副幹事	原内陽伸 (寝屋川)
地区会計	斎藤まさみ (大阪南)
北大阪ゾーン代理	阿部美紀 (守口)
大阪ゾーン代理	山本和良 (東大阪)

**第266地区RAC一覧表**

北大阪ゾーン (7RAC)	池田RAC, 吹田RAC, 茨木RAC, 高槻RAC, 寝屋川RAC, 枚方RAC
大阪ゾーン (12RAC)	大阪RAC, 大阪東RAC, 大阪西RAC, 大阪南RAC, 大阪北RAC, 大阪西南RAC, 大阪天満橋RAC, 大阪住吉RAC, 大阪淀川RAC, 大阪平野RAC, 八尾東RAC, 東大阪RAC

1988～'89年度第266地区年間行事予定

1988年 7月 7日(木)	第1回提唱ロータリークラブRAC正副委員長会議
7月10日(日)	地区合同連絡協議会 第1回リーダーシップフォーラム
7月31日(日)	第3回海外研修オリエンテーション
8月3日(水)～9日(火)	海外研修(シンガポール, 香港)
8月27日(土)	第1回総合会長会
9月11日(日)	全国統一RACの日
10月9日(日)～10日(月)	新人オリエンテーション(1泊研修)
1989年 1月18日(水)	第2回提唱ロータリークラブRAC正副委員長会議
1月29日(日)	第2回総合会長会 第2回リーダーシップフォーラム
3月31日(金)～4月1日(土)	地区年次大会
4月9日(日)	地区スポーツ大会
4月23日(日)	新旧会長幹事会
5月14日(日)	ローターアクト地区年次大会
6月4日(日)	新旧奉仕委員長会議
6月17日(土)	新旧会長会

(大阪ゾーン、北大阪ゾーンは各諸行事を自主的に実施する。)

## インターアクト委員会

委員長	藤井 則郎 (大 東)
委員	二宮 正彦 (大阪南)
同	的場 勝彌 (大阪うつぼ)
同	重村 泰弘 (大阪南西)
同	仲野 欣弥 (大阪阪南)
同	横井 悌一郎 (大 阪)
同	塩山 高之 (大阪南)
同	小室 甲 (大阪住吉)
同	中島 孝夫 (八 尾)
<p>前年度6校でスタートしたが、金光八尾高校が仲間に加わり、今年度は7校でスタートする。地域規模からすれば、まだまだクラブ数が少ないので、これからも積極的にIAC加盟校を増やしていくことが望まれる。また、ロータリー・クラブからの一方的な要求ではなく、各校から実情に即した奉仕活動や、地域へのボランティア活動の提案を受け、提唱ロータリー・クラブが側面から積極的に協力していく必要がある。</p>	
<p>本年度の活動基本計画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各校で何か一つ新しい継続事業を提唱して貰いたい。</li> <li>2. 海外研修の実施</li> <li>3. 年次大会の開催</li> <li>4. IAC加盟校の設立推進</li> <li>5. 日ごろのボランティア活動を地域に根差す。</li> </ol>	

海外研修については本年度で3年連続のハワイ研修であるが、前年度の経験を踏まえ、より実りのある内容にしていく。おおらかに、そして体験的国際親善に主眼をおく。

IAC加盟校は、今の所2校が候補にあげられており、実現すれば9校になる。当266地区でも2桁の加盟校を有する日もそう遠い夢ではないだろう。

1988～'89年度IAC年間行事予定

活動項目	実施日	場 所
IAC顧問会議 (年間活動計画)	1988年 6月25日(土)	大阪桐蔭高校本館会議室
海外研修下見	6月30日(木)～7月2日	ハワイ・オアフ島
海外研修オリエンテー ション (1回目)	7月16日(土)	大阪桐蔭高校本館会議室
〃 (2回目)	7月30日(土)～31日(日)	大阪桐蔭高校岬研修センター
〃 (3回目)	8月9日(火)	大阪桐蔭高校本館会議室
海外研修 (4泊6日)	8月25日(木)～30日(火)	ハワイ・オアフ島
海外研修反省会	9月10日(土)	大阪桐蔭高校本館会議室
IAC顧問会議 (年次大会準備) (1回目)	10月15日(土)	大阪桐蔭高校本館会議室
〃 (2回目)	11月5日(土)	大阪桐蔭高校本館会議室
〃 (3回目)	11月(未定)	大阪桐蔭高校本館会議室
年次大会	11月23日(水)	大阪産業大学多目的ホール
リーダーシップ・フォーラム 新入生歓迎会	1989年 5月13日(土)～14日(日)	未 定

MEMO

## 国際奉仕部門

担当パスト・ガバナー 戸田 孝 (八尾)

## 世界社会奉仕委員会

委員長 宮田 宏章 (大阪北)  
委員 堀内 顕 (八尾東)  
同 山本 康隆 (大阪難波)  
同 本田 次男 (大阪北)  
同 藤井 宏一 (大阪西北)  
同 武尾 敬之助 (大阪西北)

当委員会は、今日の世界においてはお互いに隣人同士だという認識の上たった、国際理解と親善を推進するために、地区のロータリアンの全員がもれなくWCSの活動に参加できるように、互いに情報交換を行ったり、協力して効果的な活動を展開するために努力する。

- (I) 地区のすべてのクラブがWCSの活動に理解と協力を示すように、あらゆる機会をとらえて広報活動を行う。
- (II) 古田ガバナーの方針に基づいて、クラブレベルのプロジェクトを基本として活発な活動の展開を促進する。
- (III) いろいろな制約からクラブレベルのプロジェクトを実施することが困難なクラブに対しては、一人あたり3,000円の拠出金を提供して頂き、地区選定のプロジェクトを合同で実施する。

# 青少年交換委員会

- |     |       |             |
|-----|-------|-------------|
| 委員長 | 入江和夫  | (高槻)        |
| 委員  | 中西清雄  | (摂津)        |
| 同   | 中一皓   | (枚方くずは)     |
| 同   | 田中健次  | (東大阪)       |
| 同   | 八木頼夫  | (大阪)        |
| 同   | 三宅一嘉  | (大阪東南)      |
| 同   | 山本研二郎 | (大阪阪南)      |
| 同   | 泉 潔   | (豊中-大阪国際空港) |

## I 主な年間活動

- (1) 派遣及び受け入れ交換学生オリエンテーション開催
- (2) 交換学生歓送迎会、交換パーティなどの開催
- (3) ホストクラブ、ホストファミリーのオリエンテーション開催
- (4) レックス・ミーティングの援助協力。交換学生受け入れ、派遣見送り、出迎え。
- (5) 国内、国外の交換学生派遣、受け入れに関する接渉
- (6) ホームステイについてホスト・ファミリー及び来日学生からの率直な意見の聴取。
- (7) 広島原爆記念館見学など。
- (8) 来日学生に対する日本語の教育についての検討
- (9) 来日学生が通学する高等学校の選択と、その入学許可願についての検討
- (10) 交換学生などの感想文集の発行、ホストクラブ、ホストファミリーへの感謝

状作成

(11) その他

## II 青少年交換計画と交換ファンド

青少年交換は、国際理解、国際親善を目的とした手作りの国際奉仕活動である。陰で奉仕される人々に心から感謝したい。

今年度、長期派遣の学生は8名、国外からは10名を受け入れる予定である。なお、8月には1987～'88年度の日本人学生が帰国する予定である。

青少年交換はロータリアンの子弟が参加できるプログラムであり、ロータリアンの奉仕による多大の援助で成立するものであるから、ロータリアン子弟の積極的な参加を求めたいと思う。

前年度に引き続いて、交換ファンドのために地区の全会員から年間2,000円の拠出金を戴き、それを交換計画実施経費として、長期交換に対して、交換学生のホストクラブ及び交換学生に対する援助費に当てることにする。

レックス（交換学生OB、OG会）の活動がその機能を充実していくよう援助し、また、レックスには来日及び派遣交換学生のオリエンテーションなどに対して、各自の体験を生かし、具体的な交換生活を説明させる。

毎年度、新たに青少年交換に参加するクラブを見だし、4～5年に一度は各クラブが青少年交換を実施されるよう求めたい。また、クラブ単位の青少年交換についても、情報を集め、できる限りの援助をしたいと考えている。

今年度は従来の長期交換地区である米国、カナダの諸地区以外に、西ドイツ（D-180/190）、ベルギー（D-217）、スイス（D=199/200）、英国、R.I.B.I（D-101/127）等の諸地区との長期、短期交換を行う予定である。

### III 交換学生の状況

#### (1) 派遣交換学生（1987年8月～1988年7月）

氏名	性	年齢	スポンサーRC	ホストRC	地区	国名
松本 宙治	男	17	大 東	Lockport, Illinois	D-645 セントラル	U. S. A.
岩崎 明子	女	16	大 東	Grimsby, Ontario	D-709	Canada
山本 敢哉	男	17	大阪うつぼ	Bloomington North, Indiana	D-658 セントラル	U. S. A.
高野 准幸	男	16	大阪阿倍野	Mount Pleasant, Pennsylvania	D-733 エセックス	U. S. A.
鶴元 進一	男	16	摂 津	Minneapolis Club 9, Minnesota	D-595/596	U. S. A.
海堀 麻子	女	17	大阪西南	Twin Falls, Idaho	D-540	U. S. A.
奥村 哲子	女	17	大 東	Salem, Oregon	D-510	U. S. A.

## (2) 受け入れ交換学生(1987年8月~1988年7月)

氏名	性	年齢	ホストRC	スポンサーRC	地区	国名
STURTZ, Cindi Lou	女	17	大阪西南	Twin Falls, Idaho	D-540	U. S. A.
PERKINS, Christopher Alan	男	17	枚方くずは	Elliot Lake, Ontario	D-701	Canada
MARCIL, Shawn Philippe	男	16	守口	Brampton, Ontario	D-707	Canada
GIBBONS, Stacy Renee	女	17	大東	Owosso, Michigan	D-631 セントラル	U. S. A.
NICCUN, Eric Charles	男	16	大阪うつば	Rushville, Indiana	D-656 セントラル	U. S. A.
CUNINGHAM, Caroline Atlee	女	18	摂津	Minneapolis, Minnesota	D-595	U. S. A.
KAY, William Morris	男	16	大阪阿倍野	Bethlehem, Paennsylvania	D-743 エセックス	U. S. A.
SCOTT, Stephen Douglas	男	18	東大阪	Petersborough, Ontario	D-701	Canada
ENNA, Dole Marie	女	16	大東	Baker, Oregon	D-510	U. S. A.

## (3) 派遣交換学生(1988年3月~1989年3月)

氏名	性	年齢	スポンサーRC	ホストRC	地区	国名
北本篤史	男	16	枚方		D-701	Canada
大西由美	女	15	大阪阪南		D-991	New Zealand

## (4) 派遣交換学生(1988年8月~1989年7月)

氏名	性	年齢	スポンサーRC	ホストRC	地区	国名
峯村真理	女	16	大阪		D-707	Canada
下出裕子	女	16	大阪難波		D-629 セントラル	U. S. A.
山村三千子	女	16	吹田西		D-605 サウスセントラル	U. S. A.
泉朋子	女	16	豊中- 大阪国際空港		D-542	U. S. A.
村上佳織	女	15	大阪東南		D-217	Belgium
熱田邦彦	男	16	四条畷		D-707	Canada

## (5) 短期派遣交換学生(1988年~1989年)

氏名	性	年齢	スポンサーRC	ホストRC	地区	国名
植田典子	女	15	箕面中央		D-510	U. S. A.
折野一郎	男	20	枚方くずは		D-185	W.Germany
重村安奈	女	17	大阪南西		D-198	Switzerland

(6) 受け入れ交換学生 (1988年8月~1989年7月)

氏名	性	年齢	ホストRC	スポンサーRC	地区	国名
LALOUX, François Hugo	男	18	大阪東南		D-217	Belgium
BELL, Karen Marie	女	17	豊中- 大阪国際空港		D-542	U. S. A.
MARTIN, Cheryl Lynn	女	18	大阪		D-707	Canada
SYMONS, Stacie Lynn	女	17	四条畷		D-707	Canada
McMILLAN, Sandi Alison	女	18	大東		D-709	Canada
McCONNELL, Jeremy David	男	18	吹田西		D-605	U. S. A.
CAMPBELL, Misti Pearl	女	17	枚方		D-701	Canada
WELCH, Clara Ann	女	17	大阪難波		D-629	U. S. A.
KAHRS, Max-Martin	男	17	枚方くずは		D-185	W.Germany

(7) 受け入れ交換学生 (1989年1月~1990年1月)

氏名	性	年齢	ホストRC	スポンサーRC	地区	国名
(未定)			大阪阪南		D-991	New Zealand

(8) 短期受け入れ交換学生 (1988年~1989年)

氏名	性	年齢	ホストRC	スポンサーRC	地区	国名
BORTER, Ingrid	女	20	大阪南西		D-198	Switzerland
MARUOKA, Marusia	女	18	大阪東南		D-461	Brasil
GIBBS, Jennifer Jill	女	18	箕面中央		D-510	U.S.A.

氏名	性	年齢	ホストRC	スポンサーRC	地区	国名
藤田典子	女	21	箕面中央		D-510	U. S. A.
伊藤一雄	男	20	枚方くずは		D-185	W. Germany
東村文彦	男	17	西宮東大		D-198	Switzerland

# 米山奨学委員会

委員長 中川 藤 一 (大阪西)

委員 小杉 三 朗 (豊中)

同 三好 正 三 (大阪大手前)

同 重光 世 洋 (大田東)

同 渡辺 一 斌 (東大阪中)

同 永野 啓之介 (豊中-大阪国際空港)

同 井上 幾 夫 (大阪淀川)

## I 募 金 目 標

当地区の前年度はポリオプラス寄附にも力を入れていたので米山奨学金の寄附は減少するのではないかと危惧していたが、皆様の御協力で予定通りにいく予想である。本年度目標は前年度並の1人当たり1万7千円、地区総額7,800万円程度とする。

### (1) 普通寄附

1886~87年度普通寄附は、クラブにより1人当たり2,500円~6,000円で、地区内平均は、4,165円であるが、4,000円以下のクラブに対しては増額方をお願いする。各クラブに対しても普通寄附を増額して頂く方向で進めていきたい。

### (2) 特別寄附

米山功労者、準功労者並びに新設の米山功労法人、米山特別功労法人の申し込みを積極的に勧める。会員1人当たりの寄附額が地区の目標額より低いクラブに対しては、機会ある毎に特別寄附をお願いする。

尚、1986~87年度は1人平均12,725円普通寄附との合計16,891円、総額75,774,310円であった。

## II 奨学生の援護活動

米山記念奨学会の主旨に沿って、奨学生の世話クラブ及びカウンセラーの援護

活動には感謝し密接に連絡をする。

- (1) 奨学生には地区米山委員会の主催する会合の出席率を高める。
- (2) 地区ローターアクト委員会と連携して、奨学生のローターアクト活動参加を勧める。
- (3) RYLAへの参加を奨励する。
- (4) 在日元奨学生による米山奨学生学友会（関西）が組織されたのでこれの健全育成をはかるとともに、奨学生を交えた懇親の機会を持つ。

### Ⅲ 奨学生を通じた国際交流

- (1) 奨学生による母国ロータリークラブとの交流を勧め、ロータリーの意義を認識させるとともに、国際交流の機会を増す。
- (2) 世話クラブは勿論、それ以外のクラブに対しても卓話等を通じて奨学生との接触を深めることを勧める。

### Ⅳ 米山事業のPR

- (1) 米山月間等の機会を利用し、地区委員、奨学生、学友会員等により卓話を行う。
- (2) I.G.Fを利用し地区委員が手分けして米山事業のPRを行う。

### Ⅴ 奨学生の募集

奨学金受給希望者は年々増加しているが、各大学及びクラブに依頼して新規応募者の増加につとめる。

国際交流委員会

(新撰) 大 一 野 浩 司 委員

(新撰) 大 田 吉 同 委員

(新撰) 大 五 田 吉 同 委員

(新撰) 大 川 小 同 委員

(新撰) 大 三 田 吉 同 委員

(新撰) 大 山 田 吉 同 委員

委員長 野村浩司 (大阪港)

委員 稲本晃 (大阪東)

同 嘉納尚 (大阪西)

同 松本一夫 (大阪駅)

同 加納繁美 (大阪梅田)

同 八田陸奥雄 (大阪城北)

- 1) 1988年～1989年度の国際大会は大韓民国、ソウル市で1989年5月21日～24日まで開催される予定になっている。特に日本と韓国との間では日・韓親善会議が毎年行われており、又当地区においても18クラブが現在韓国のクラブと姉妹締結を持ち、大変積極的な交流が行なわれている。今回特に韓国側からの強い要請で日本から15,000人ぐらい参加してほしいとの事もあり、当地区からも会員及びその家族を出来るだけ多くの参加者を送るためソウル大会委員会と協力しあらゆる機会を通じて各クラブに働きかける。
- 2) 1988年度のフィラデルフィア大会のビデオを2本買入する。出来るだけ多くの会員にその雰囲気を知ってもらえるように有効かつ効果的利用をする。手元に入りしだいガバナー月信で案内し、回覧する。
- 3) 姉妹クラブ、友好クラブ等の地区の現況を調査するためにアンケートを取り、地区の一覧表を作成しガバナー月信に掲載する。又この国際大会を機に韓国のロータリークラブとの姉妹クラブ締結、又その問題点を把握し検討する。
- 4) 当委員会に関する通知、伝達事項、又国際大会に関するニュース等出来るかぎり多くの情報をガバナー月信に掲載する。

# ソウル大会行委員会

## 会 員 委 員 交 迎 団

委員長 世戸一夫（大阪難波）

副委員長 野村浩司（大阪港）

委員 土屋正（大阪難波）

同 小川肇（大阪なにわ）

同 吉田三七雄（大阪南）

同 稲葉静也（大阪）

国際奉仕部門担当戸田パストガバナー指導のもとに国際交流委員会とソウル大会行委員会の合同委員会が5月25日ロイヤルホテル544号室で開かれ、下記の主旨のもとに、地区内各クラブ会長、国際奉仕委員長宛に情報把握のため、アンケートの提出を求める手紙を出した。（7月20日必着）

- (1) 国際大会が韓国ソウルで1989年5月21～24日に開催されます。（日本より15,000名、266地区より1,500名の参加が望まれています。）
- (2) この機会に韓国との姉妹クラブ関係を密にし、又新しい提携を促進したいものです。
- (3) この機会に韓国のRCと共同してWCSと取組んではいかがでしょうか？

アンケートにより地区内各クラブのソウル国際大会参加に対する計画と姉妹クラブとの関係を密にする計画を知り、地区として協力、援助の出来る方法を見出した。旅行計画、ホテルの確保、ホームステイ等については宋仁相大会委員長に連絡し照会中である。呉在璟（前RI理事）よりは当地区が「ソウル大会行委員会」を組織し、出来るだけ沢山の方が参加されるよう努力していることに対し、鄭重な感謝の電報がよせられています。

## ロータリー財団部門

担当パスト・ガバナー 種 田 憲 次 (大阪住吉)

### ロータリー財団委員会

委員長 種 田 憲 次 (大阪住吉)

委員 名 張 隆 政 (吹 田)

同 会 木 村 英 一 (大阪住吉)

同 大 社 照 史 (大阪淀川)

同 中 田 康 仁 (大阪南)

同 山 中 文 和 (大阪南)

### 主たる行事・委員会

#### 1988年

7月9日 1989-90年奨学生第1次選考

7月23日 1989-90年奨学生第2次選考

8月19日 地区ロータリー財団委員会 (第2回)

8月20日 1987-88年奨学生帰国報告・歓迎会

8月 G. S. E. 壮行会

9月3日 クラブ・ロータリー財団委員長会議

10月 G. S. E. 帰国報告・歓迎会

10月 地区ロータリー財団委員会 (第3回)

11月 ロータリー財団月間

12月 地区ロータリー財団委員会 (第4回)

#### 1989年

2月 地区ロータリー財団委員会 (第5回)

2月 クラブ・ロータリー財団委員長会議

- 4月 D-144 G. S. E. 歓迎会  
 4月 地区ロータリー財団委員会(第6回)  
 5月 D-144 G. S. E. 歓送会  
 6月10日 1990-91年奨学生第1次選考  
 6月17日 1989-90年奨学生オリエンテーション・壮行会  
 6月24日 1990-91年奨学生第2次選考  
 6月 地区ロータリー財団委員会(1989-90年度 第1回)

## 財団奨学金委員会

委員長 名 張 隆 政(吹 田)

委員 白羽 弥右衛門(大阪阿倍野)

同 高 士 修(守 口)

同 大 川 進一郎(大 東)

同 阿 部 裕(大 阪)

同 塩 川 二 朗(千 里)

同 西 田 陽 一(茨 木)

同 西 原 明(大阪心斎橋)

同 大 野 真 義(高 槻)

### 委員会活動計画

- (1) 1989-'90年度奨学生(割当15名)選考は下記の手順で行う。
1. 募集、申請書受付、書類審査等はすべて前年度中に完了した。
  2. 第一次選考試験(語学試験、小論文)は7月9日(土)、第二次選考試験(面接)は7月23日(土)に、いずれも大阪YMCA会館にて実施する予定。
  3. ロータリー財団管理委員会に候補者申請書類を10月10日までに順次送付の予定。
  4. 候補者及びガバナー宛に、ロータリー財団管理委員会より12月15日まで

に、奨学金受領最終決定者名の通知がある見込み。

5. 奨学金候補者、同推薦クラブ顧問、学友等によるオリエンテーションを、10月以降、来年6月出発までに3回程度行う予定。

本年度選考に当っては、特に語学力の水準を高くし、補欠候補者を従来より多い目に選考する必要を感じている。

- (2) 1990-'91年度奨学生選考については、本年10月頃、財団本部より褒賞枠の通知がある見込みで、ポスターの配布、募集、申請書受付等を前年度より約1か月早め、選考試験は一次、二次それぞれ来年6月10日、24日に実施の予定。

- (3) 海外他地区よりの奨学生受け入れについて

日本に対する関心が高くなるに伴い、海外よりの奨学生が増加する傾向にあり、奨学金委員会も今後、ホストクラブ、カウンセラーの選定、奨学生への対応に、より一層の考慮を必要とする時期が到来しつつあり、本年度既に下記2名が決定している。

B. R. Oliver (USA) 留学先 関西大学 9月より ホスト 吹田RC

D. J. Scheeler (USA) 同 関西大学 9月より ホスト 吹田西RC

なお、来年4月又は9月より、2名の女子奨学生が大阪大学及び関西大学に留学の予定。

- (4) 国際奉仕部門、米山奨学委員会とも相談の上、大阪地域留学生等交流推進協議会に参加し、財団、米山奨学生も含め一般留学生問題への対応を進めて行きたい。

## 研究グループ交換委員会

委員長 木村英一（大阪住吉）

委員 木川稔（摂津）

同 東平介（寝屋川）

同 村上実（池田）

同 細江重（大阪東淀）

同 辻達雄（大阪南）

同 銭谷力（摂津）

同 増田鼎（八尾）

同 山川真（大阪住吉）

同 武尾敬之助（大阪西北）

デンマーク第144地区との組合せでGSE団員の派遣・受入れを実施する。

### 派遣団員氏名

ガバナー代理（団長） 櫃村泰信（摂津RC）

団員 前川泰之（寝屋川RC推薦）

〃 中島功一郎（大阪北RC推薦）

〃 上中普雄（摂津RC推薦）

〃 吉村幸久（箕面RC推薦）

〃 柚原功（大阪天満橋RC推薦）

団員は1988年9月1日出発、10月5日まで5週間デンマーク第144地区の6ホストクラブ会員宅に宿泊、受入れ地区のプログラムに従い研修旅行、職業研修などにより、相互理解と親善を深める。

前年度の委員会では、4回のオリエンテーションを行ったが、本年度は、7月16日に第5回、8月6～7日一泊合宿の第6回オリエンテーションを実施する。

ロータリー財団GSE担当者より要請のあったベルリッツ語学研修は、8月12～13日一泊二日の学習を実施する。

8月下旬 GSE委員会主催歓送会

10月中旬GSE委員会主催歓迎会

帰国後、ロータリークラブ卓話に団員派遣。

12月 団員報告書作成、ロータリー財団に報告。

第114地区よりの団員受入れ期間は、1989年3月29日より5週間の予定。

10月中旬 GSE団員受入れ実行委員会編成。ホストクラブ、ホームステイ担当会員、研修スケジュール等審議。

第144地区より団員の氏名・履歴・写真等資料到着後プログラム印刷。

3月29日 受入GSE団員空港出迎え。ホテル案内。

3月30日 団員オリエンテーション。

4月(未定) 第266地区大会出席。

4月(未定) ガバナー主催歓迎会

団員滞在中、ホームステイ、見学・研修旅行、職業研修等の援助。

5月(未定) ガバナー主催送別会。

5月 大阪空港見送り。

## 財 団 増 進 委 員 会

委員長 大 社 照 史 (大阪淀川)

委員 田 中 純 吉 (八尾)

同 青 野 明 (交野)

同 濱 田 新 (大阪うつぼ)

同 松 原 鍵 吉 (箕面)

### I 活 動 方 針

(1) 地区ロータリー財団委員長を中心としてロータリー財団関係委員会と緊密な連携をとり、財団増進を図る。特に本年もポリオ・プラス計画の募金と並行して行われるので、地区ポリオ・プラス委員会と協調して当地区本来のロータリー財団活動の上にひずみのないような募金活動を行う。

(2) ロータリー財団の意義・活動をPRし、財団の事業計画を金銭面で支持する

必要性について認識を喚起する。

- (3) 本年度無条件寄付（注：従来のロータリー財団への寄付であり、その実績によって地区への奨学金の褒賞枠が決まるもの）目標を1人当たり100ドル以上と設定し、前年度以上の実績を期す。

## II 活 動 計 画

- (1) 地区増進委員会を適時開催し、R Iに正式に登録された成績を調査検討し、適時情報を流して増進を依頼する。また、「ガバナー月信」に適時その成績を発表する。
- (2) 9月3日（土）に開催される各クラブ財団委員長会議の際、その委員長等地区財団関係者との連絡を密にして、財団増進活動の円滑な推進を図る。
- (3) 11月の財団月間は、各クラブロータリー月間にふさわしい行事の実施をお願いします。（財団学友委員会と共同で財団学友卓話を幹旋するとか……ロータリー財団月間にちなんだ卓話を披露するとか、特別な企画によってロータリー財団への募金を図る）
- (4) 特に新クラブ結成時や新入会員に対しては、十分インフォメーションを与えて、ポールハリスフェローや準ポールハリスフェローになるよう勧誘し、また、準ポールハリスフェロー後の寄付の継続をお願いします。
- (5) I G F組別に委員の担当を決め、財団増進を図る。

組 別	担 当 委 員
1	松 原 鍵 吉
2	青 野 明
3	同
4	田 中 純 吉
5	同
6	大 社 照 史
7	濱 田 新
8	大 社 照 史

## 財 団 学 友 委 員 会

委員長 中 田 康 仁（大阪南）

委員 仲 獎 芳 樹（吹 田）

同 木 本 武 雄（大阪北）

同 田 川 弘 雄（箕 面）

同 西 村 一 夫（池 田）

本年度の委員会活動は、基本的には前年度を踏襲するが、P S Cの強化育成を活動方針の中枢に据え、ロータリアンと、元奨学生を中心としたP S Cとの、より緊密な連携を目指す。

### 1. 学友会名簿の整備と作成配布

名簿の整備は、片時も疎かに出来ない。歴代委員会の多大な努力によって、今日、かなり整備されてきたというものの、移動の激しい学友の追跡調査は容易ではない。スポンサークラブ、顧問ロータリアンはじめ、関係方面に、奨学生や学友たちとの日常的交流を要望したい。

### 2. 「P S Cだより」の編集配布

奨学生の留学先からのレポート、P S C会員の体験談等、これが出発前の奨学生にとっては貴重な参考資料となるよう、内容の充実に務める。更に、ロータリアンに対しても、財団活動の啓蒙啓発の資料として、広く活用されることを要請する。

### 3. 奨学生候補に対するオリエンテーション

従来通り、奨学金委員会に協力する。

### 4. R I 財団の広報支援

「ロータリー財団月間」期間中の卓話幹旋はもとより I G F等地区内の諸活動

に、要請があれば積極的に参加する。

5. 当委員会が地区レベルの委員会であって、今ひとつ一般会員の馴染は薄い。学友会活動が、単に、元奨学生・元GSE参加者を対象にしたものではなく、あらゆるロータリー・ボランティアを包含した活動であるという認識に立って、当委員会活動そのものをPRして行きたい。

(田 島) 夫 一 林 西 同

## ポリオ・プラス委員会

委員長 山 中 文 和 (大 阪 南)

委員 阪 口 勇 (大 阪 柏 原)

同 三 好 三 郎 丸 (大 阪 天 満 橋)

同 木 村 吉 弥 太 (大 阪 南)

同 池 田 栄 吉 (池 田 くれ は)

同 執 行 経 世 (枚 方)

- 1) 5月25日 フィラデルフィアの世界大会で日本も誓約参加し、2,700万ドルの募金達成したものと表彰された。(4月現在1,500万ドル)

従って今期よりは最終目標額ではなく、誓約目標とも言うべき性格になったので当地区も、なんとしても予定通りの募金をせねばならないと決意をあらたに致しています。

- 2) 4月末をもって当地区の最終目標額1億7千5百万円に対し累積額約1億37万円となり、その率56%となりました。これ全く、松本直前ガバナーの大変な御熱意によることは言うまでもありませんが、当地区RCの御協力の賜と厚く感謝するところです。

- 3) 4月末で大阪淀川RCの最終目標額に対し、142%の募金達成を最高として、

四條畷、大阪柏原、茨木東、大阪、池田くれはクラブの6RCはもはや100%を突破しております。

4) 4月末の結果でみますと最終目標額に対して10%以下のクラブが残念ながら3クラブあります。なお、30%以下のクラブが16RCもあり、協力的なRCと、あまりそうでないRCとのバラつきが特に目立ちます。

5) 日本ポリオ・プラス委員会へ連絡の上、RC以外からの協力を仰ぐ方法等、参考にするべき方法を各クラブへパンフレットを送付します。

6) 7月中に第一回地区委員会を開催し、又今年度の地区平均目標%(誓約目標額に対し)を設定し、低率RCへ、あまり強制的にならなくて、如何に督促するかを検討します。

---

MEMO

---

## 拡 大 部 門

担当パスト・ガバナー 世 戸 一 夫 (大阪難波)

## 拡 大 委 員 会

拡 大 委 員 長 世 戸 一 夫 (大阪難波)

拡 大 カ ウ ン セ ラ ー 高 林 辰 行 (大阪西北)

同 森 藤 憲 一 (大阪城北)

同 辻 井 鎌 郎 (大阪阪南)

拡 大 委 員 田 代 通 (守 口)

同 藤 本 哲 雄 (寝 屋 川)

同 龍 川 紀 征 (吹 田 西)

(1) 1987～88年度は、大阪城RC(スポンサークラブは大阪東RC)、大阪梅田東RC(スポンサークラブは大阪梅田RC)、大阪船場RC(スポンサーRCは大阪心斎橋RC)の創立をみる事が出来た。

(2) 昨年末、地区内に於いて拡大可能と思われるのは、高槻RCをスポンサークラブとして高槻市域内に1クラブ、吹田西RCをスポンサークラブとして吹田RC、吹田西RCの区域限界内に1クラブ設立の見通しであったので、これを担当パストガバナー、拡大カウンセラー、拡大委員より懇請する予定。

大阪阪南RCをスポンサークラブとして1アディショナルクラブ設立を計画  
中である。

守口RC、其の他の有力なRCに対し、新クラブを設立されるよう担当パストガバナー、拡大カウンセラー、拡大委員より懇請の予定。

# 財 務 委 員 会

委員長 吉川 秀一(大阪)

委員 竹内 貢(大阪東)

同 伊藤 正之(大阪西北)

会計 下地 民男(大阪)

今年度の予算につきましては、既往の各年度、各科目毎の予算と実績を比較検討し、かつ、今年度の活動方針と地区委員会の要望を勘案して策定しました。なお、本予算書は過日開催された地区協議会・会長部門に提示され承認されました。

## I. (収入の部)

収入の部の根幹をなす地区資金については、地区ロータリアンの総数を、前年比100人増と見積り1,500千円の増収といたしましたが、繰越金を含めての全収入合計額は前年度を相当額割込む結果となりました。

## II. (支出の部)

収入の減収に加えて、今年度は大口支出予算として「研究グループ交換委員会」の活動費を予算計上せねばなりませんので、その他の「各委員会活動費」「会議費」「ガバナー事務所経費」等々につきましては、真にやむをえないものを除き、前年度並もしくはそれ以下に抑えました。その結果「会議費」については前年比97.3%、「ガバナー事務所経費」については94.8%となりました。

「委員会活動費」のうち、前年度に比し目新しい項目について説明いたしますと、

- (1) 国際奉仕部門において「ソウル行委員会」が設置されますので、130千円を計上しました。



# 地区大会委員会

委員長 木村五郎(大阪)

プログラム委員長 牧内栄蔵(大阪)

幹事 西川実(大阪)

(1) 昨年来、古田ガバナーエレクトより提示された基本方針に基づき、地区大会実行委員会を組織し、幹事、プログラム委員長を中心に全体構想を練って来ましたが、現在更に細部に互って検討を計っております。

(2) 地区大会の日程、及び開催場所は、

昭和64年3月29日(水) 記念ゴルフ大会 茨木カントリークラブ西コース

昭和64年3月31日(金) 会長幹事懇談会

部門別協議会

RI会長代理歓迎晩餐会

} ロイヤルホテル

昭和64年4月1日(土) 本会議 フェスティバル・ホール

に決定し、夫々の会場は既に確保しております。

(3) 地区大会の行事内容に関しましては、近くガバナー月信にて報告申し上げますが、過去の地区大会の運営を参考に、参加会員及び御婦人の皆様に充分ご満足戴ける様な大会に致したいものと、ホスト・クラブの全力をあげて準備を進めております。会員各位及び御婦人皆様の御支援と、多数の御参加を御願い申し上げる次第でございます。

(4) 地区大会事務局は本年9月より下記に設ける予定です。

ロイヤルホテル 329号室(予定)

電話 06-448-1121

1988～1989年度 国際ロータリー第266地区

収 支 予 算 書

作成 昭和 63 年4月 13 日

承認 昭和 63 年5月 14 日

収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
前 期 繰 越 金	9,000	15,000
R. I. 交 付 金	800	800
地 区 資 金 (15,000円×4,700人)	70,500	69,000
雑 収 入	700	1,000
合 計	81,000	85,800

ガバナー 古田 敬三  
 財務委員長 吉川 秀一  
 会 計 下地 民男

支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
委 員 会 活 動 費	(22,750)	(20,050)
地区ガバナー指名委員会	150	200
意義ある業績賞委員会	30	50
クラブ奉仕部門		
会員増強委員会	180	200
広報雑誌委員会	400	450
規定情報委員会	500	500
職業奉仕部門		
職業奉仕委員会	130	150
社会奉仕部門		
社会奉仕委員会	350	400
緑化推進委員会	300	250
青少年奉仕部門		
青少年活動委員会	2,200	2,200
インターアクト委員会	2,600	2,600
ローターアクト委員会	5,000	8,500
国際奉仕部門		
世界社会奉仕委員会	150	150
青少年交換委員会	350	350
米山奨学委員会	420	500
国際交流委員会	130	250
ソウル大会行委員会	130	
拡大部門		
拡大委員会	150	150
ロータリー財団部門		
ロータリー財団委員会	50	150
財団奨学金委員会	1,200	1,500
研究グループ交換委員会	6,850	200
財団増進委員会	230	250
財団学友委員会	400	400
ポリオ・プラス委員会	200	150
委員会活動予備費	650	500
会 議 費	7,250	( 7,450)
地区大会補助	300	300
地区協議会補助	300	300
地区委員会	2,800	2,800
ガバナー打合せ会議費	1,500	1,500
R. I. 会長記念品代	150	150
同上歓迎会	350	350
直前ガバナー記念品代	250	250
G.N.国際会議参加補助	800	800
予 備 費	800	1,000
日本国内地区ガバナー会	940	920
ロータリー文庫協力費 200円×4,700人	940	920
リハビリテーション世界会議協賛金		920
地区大会分担金 3,000円×4,700人	14,100	16,100
ガバナー月信印刷費	8,500	( 8,800)
製版・印刷・送料・ホルダー	8,200	8,500
予 備 費	300	300
ガバナー事務所経費	20,520	21,640
合 計	75,000	76,800
次 年 度 繰 越 金	6,000	9,000

	63年12月末	63年2月末
クラブ数	69	65
会員数	4,700(予)	4,623

(単位：千円)

ガバナー事務所経費内訳		
科 目	予 算 額	前年度予算額
借 室 料		3,500
光 熱 費	3,520	
給 料	9,000	8,850
ガバナー交通会合費	1,200	1,190
印 刷 費	1,500	1,500
交 通 通 信 費	2,000	2,500
文 献 費	150	150
事務用消耗品費	1,000	1,500
什器備品費	400	250
雑 費	1,500	1,700
予 備 費	250	500
合 計	20,520	21,640



